

令和3年度 自己評価

専門学校松山ビジネスカレッジ
ビジネス校

学校法人松山ビジネスカレッジ

令和3年11月5日

自己評価の実施について

(1) 学校法人松山ビジネスカレッジについて

専門学校松山ビジネスカレッジ クリエイティブ校（旧 松山女学院専門学校、松山デザイン専門学校）、専門学校松山ビジネスカレッジビジネス校（旧 松山コンピュータ専門学校、松山情報ビジネス専門学校）及び松山歯科衛生士専門学校は、松山市中心部に位置し、学校法人松山ビジネスカレッジが経営する専修学校である。昭和 21（1946）年 3 月、「松山洋裁女学院」として創立され、現在専門学校 3 校、3 学科に拡充し、15,000 人余の卒業生を世に送り出してきた 75 年の歴史と伝統のある専門学校である。

(2) 専門学校松山ビジネスカレッジ ビジネス校 自己評価の実施概要

自己評価は、理事長以下常務理事、校長、管理本部長、進路指導部長、管理本部次長、学科長を責任者とし、関係する全ての教職員による評価を反映できるよう実施し、経営陣及び全ての教職員は、法人・学校として目指すべき重点課題を再認識し、その達成状況や達成に向けた取り組みの適切さ等を自ら評価した。

なお、自己評価表の作成については「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に、10 の項目について「1（不適切）～4（適切）」の 4 段階評価で行った。

(3) 自己評価の成果

経営陣は、自己評価の結果を受けて、組織的に重点的に取り組むべきことは何かを把握し、その改善に取り組むことで、組織的・継続的に学校運営を改善することの重要性を示すことができた。

上記を受けて、関係する全ての教職員一人ひとりが、教育の質を担保し、学生がより良い学校生活を送れるよう、学校運営の改善と発展を目指し、不断の努力を積み重ねている。

また、当該評価の成果物である、本報告書を公表することで、安定的・持続的な経営に資する一層の効果が発揮されている。

(4) 自己評価の公表方法及び期間

本自己評価の公表方法は、松山ビジネスカレッジのホームページにその全文を掲載することで公表する。公表期間は、翌年度実施の自己評価の公表の前日までとする。

なお、諸般の事情により翌年度の自己評価が実施できない、あるいは公表できない場合は、ホームページ掲載から 1 年を経過した時点を、公表の終期とする。

(1)教育理念・目標

回答者	評価項目	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学校	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。 (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
学校	学校における職業教育の特色は何か	④ 3 2 1
学校	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1
学校	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に 周知されているか	4 ③ 2 1

【課題】

- ①地域との共存、連携も含めた、社会のニーズに合わせた育成人材像
- ②学生・保護者等へ学校の理念、特色及び将来構想の周知

【今後の改善方策】

- ①企業や地域社会との連携強化を図り、企業の求める人材像や、必要な知識・技術が修得できるカリキュラム編成、授業内容となるよう見直しを行い、社会に求められる人材を育成する。
- ②学生や保護者に対して、学校の経営理念や特色等をオープンキャンパスやガイダンス、高校訪問活動等を通じて丁寧に説明し理解を求めていく。

【特記事項】

- ・教育活動等の情報公開については、授業計画(シラバス)や3つのポリシー(卒業認定・教育課程編成・入学受入れ)、成績管理等についてHP上に公開している。

(2) 学校運営

回答者	評価項目	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
管理本部	目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
管理本部	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④ 3 2 1
管理本部	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④ 3 2 1
管理本部	人事、給与に関する規程等は整備されているか	④ 3 2 1
管理本部	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4 ③ 2 1
管理本部	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④ 3 2 1
管理本部	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④ 3 2 1
管理本部	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 ③ 2 1

【課題】

- ①当法人の運営方針に沿った事業(募集)計画の実施・検証態勢
- ②情報システム化等による業務の効率化

【今後の改善方策】

- ①事業(募集)計画の達成に向けて、Plan(計画)、Do(実行)、Check(確認)、Action(行動)のサイクルを回していくことが重要であり、月例会議において進捗を月次で確認したうえで今後の対策を協議・決定し実行していく。
- ②情報システム化等について、運用サポート業者と毎月定例会を開催し、システム機器の更新やレンタルサーバーの活用、クラウドへの移行などを段階的に実施しており、今後も問題点に対する改善策を検討し、優先順位を付けて計画的に実施していく。

【特記事項】

・教育活動等の情報公開として、授業計画(シラバス)や3つのポリシー(卒業認定・教育課程編成・入学者受入れ)、成績管理等についてHP上に公開している。

(3)教育活動

回答者	評価項目	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学校	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
学校	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1
学校	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
学校	授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
学校	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
学校	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4 ③ 2 1
学校	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1
学校	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 ③ 2 1

【課題】

- ①教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえたカリキュラムの構築
- ②教員の専門分野の先端的な知識・技術の修得や、指導力育成などの資質向上への取り組み
- ③関連企業の管理者および現場担当者との情報交換を含めた連携の強化

【今後の改善方策】

- ①現場のニーズ(求める人材)は多種多様であるため、企業側からみた資質・能力について、業界のニーズに関する調査結果の中から実践教育の強化、取得を目標とする資格等、本校が担うべき教育課程の改善に継続して取り組む。また、学生にも学習目標を明確に伝えることで意欲向上に繋げる。
- ②社会で求められている先端知識を習得して授業に取り入れるために、各メーカーで実施されているセミナーや研修に積極的に参加し、指導力向上に取り組む。
- ③実習先、就職先等、業界関連企業と定期的に交流し、企業が求める人材像等の情報交換を行うなど学校教育の質の向上にむけて連携を強化していく。

【特記事項】

- ・教職員の資格取得等の自己啓発に対し表彰制度を定めている。
- ・教職員の企業主催研修、セミナー参加5件(内資格取得1件)

(4) 学修成果

回答者	評価項目	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
進路指導	就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1
学校	資格取得率の向上が図られているか	4 ③ 2 1
学校	退学率の低減が図られているか	④ 3 2 1
学校	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④ 3 2 1
進路指導	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4 ③ 2 1

【課題】

- ①早期の就職内定の獲得および関連業種就職率の向上
- ②資格取得率の向上
- ③卒業生の継続的な状況把握
- ④卒業後も含めたキャリア形成の状況把握

【今後の改善方策】

- ①入学時から職業に関する適正検査を実施し、自己理解を促進するとともに就職に向けた関連業種の業界研究を行わせることにより優良企業に早期就職内定できるよう取り組む。
- ②定期的な模擬試験、過去問演習を実施することにより個人能力を早期に把握し、個別指導を行うことで、昨年度実績を上回る全国平均より高い合格率を目指す。また、担当教員の資格取得率に対する意識付けを行い、資格試験別に目標を設定し、プロセスと結果に対する評価、分析、改善を継続して行う。
- ③卒業時に同窓会幹事を選出したうえで、年度毎に卒業生によるSNSグループを作成し、卒業後も連絡を取れる体制を構築する。その中で、卒業生を対象とした調査を実施する等、継続的に卒業生の状況を把握していく。
- ④同窓会の組織化を図り、卒業生のキャリア形成状況等を情報収集し学校の教育活動の改善に活用していく。

【特記事項】

・学生への発達段階の把握と支援計画について、愛専各連が主催する「学生の対人関係から見た心理特徴と支援の検討」をテーマとした勉強会(オンライン会議システム)に教職員が参加した。

(5) 学生支援

回答者	評価項目	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
進路指導	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
管理本部	学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1
進路指導	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
管理本部	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4 ③ 2 1
管理本部	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
管理本部	学生の生活環境への支援は行われているか	4 ③ 2 1
学校	保護者と適切に連携しているか	④ 3 2 1
進路指導	卒業生への支援体制はあるか	4 ③ 2 1
学校	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 ③ 2 1
進路指導	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4 ③ 2 1

【課題】

- ① 学生相談に対する支援体制の整備及び学園内共有や保護者との連携強化
- ② 学生に対する経済的な支援体制の整備
- ③ 卒業生への支援体制の整備
- ④ 学生、保護者、教員の3者の信頼関係構築
- ⑤ 特別な配慮が必要な学生に対する支援
- ⑥ 高専連携によるキャリア教育、職業教育の強化

【今後の改善方策】

- ① 学生の心のケア、保護者との連携にも留意しながらキャリア教育・相談を実施するとともに、必要な情報は学内で共有する。共有に当たっては、心理的特徴や学習の傾向を図るツールの活用により個々人に合った指導方法など教員と適宜調整するとともに、教職員のスキルや知識向上のための体系的な研修制度も構築する。
- ② 日本学生支援機構の奨学金をはじめ、遠隔地から就学する学生に対する「通学定期支援制度」「一人暮らし支援制度」、提携ローンの紹介等安心して就学できるように制度の周知を行う。
- ③ 卒業後は、就職先等で活躍・成長していけるよう、教員に連絡・相談がしやすいSNS等を活用し支援していく。
- ④ 現在設置しているWeb掲示板について学生だけではなく、希望する保護者にも閲覧できるよう改善を行い、学校生活や学習成果等、情報を発信、共有していく。
- ⑤ 学生に対しては、自己への承認を目的とした個別のカウンセリング等を行う。そして、各能力状況を把握したうえで、「仕事に就くこと」に焦点を当て、社会的な自立を目指す学校生活指導、就職支援を行っていく。
- ⑥ 高校生の段階から職業を意識してもらえよう、高校との連携授業を積極的に実施する。

【特記事項】

- ・令和2年度から実施された「高等教育の修学支援新制度」について、修学支援の対象機関となる専門学校として認定されている。
- ・学生全員の定期健康診断を毎年4月に実施し、学生の健康管理に努めている。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染防止対策については、3密の回避、手指消毒液の設置、来客へ検温の実施等を徹底し、学生・教職員に対しては、県内の感染状況を踏まえ、適宜注意喚起を行っている。また、感染症の拡大防止を図るため、抗原簡易キットによる検査を実施することができる体制を整備した。
- ・アライアンス契約先の河原学園と合同で、就活前の1年生を対象に地元企業の経営者とのトークイベントを実施。コロナ禍で直接的なコミュニケーションが取りにくい中、経営者と話す機会を提供することで意識変容を図った。

(6)教育環境

回答者	評価項目	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学校	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	④ 3 2 1
学校	学内外、実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 ③ 2 1
管理本部	防災に対する体制は整備されているか	4 ③ 2 1

【課題】

- ①施設・設備、機材の更新と充実
- ②コロナ禍における授業の取り組み
- ③インターンシップや実習、研修の拡充
- ④学生への防災や災害時の避難に関する意識付け

【今後の改善方策】

- ①PC機器については昨年度からノートパソコンを学生に各1台貸与し、学校・自宅のどこにいても操作し学習できる体制としている。その他必要な設備・機材、アプリケーションソフト等についても学生がより現場に近い環境で学習出来るように充実をはかっていく。
- ②新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、Web会議ツール「Zoom」等を活用し遠隔授業を実施した。今後も対面授業でなくても教員と学生のコミュニケーションが円滑に図れるようスキル向上に取り組む。
- ③優良なインターンシップ先を継続して開拓し、学生が現場に早期に馴染んでいけるよう研修内容についても担当教員と企業間で話し合い調整していく。また、コロナ禍によって実施できていなかった「研修旅行」を状況を確認しながら実施していく。
- ④当法人が制定している「危機管理規定」「災害対策マニュアル」を教職員に対して周知徹底をはかるとともに、年1回行う避難訓練などを通じて防災への関心を高め、万一の場合に適切に行動できるよう指導していく。

【特記事項】

・南海トラフ地震等の大規模地震に備え、地震発生時の安全確保行動の確認や防災意識の向上を図るため、平成27年度よりシェイクアウト愛媛(県民総ぐるみ地震防災訓練)に参加している。今年も愛媛県の実施に合わせて学生全員が訓練に参加する予定。

(7) 学生の受入れ募集

回答者	評価項目	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
進路指導	学生募集活動は、適正に行われているか	4 (3) 2 1
進路指導	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	(4) 3 2 1
管理本部	学納金は妥当なものとなっているか	(4) 3 2 1

【課題】

- ① 高校訪問やガイダンスの実施、WebやSNSを活用した広報活動による認知度アップ
- ② 教育成果の正確な周知の実施

【今後の改善方策】

- ① コロナ禍の中、状況考慮しオンラインも活用しながらガイダンス等を実施する。また高校生に分かりやすいHPの設計や、学校案内パンフレットの作成、校名や学科名を認知してもらうための広報活動(TVCM、Web広告やSNS活用)を積極的に推進する。
- ② 教育成果は、学校案内パンフレットやHP、ガイダンス等を通じて情報提供を行う。

【特記事項】

(8)財務

回答者	評価項目	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
管理本部	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4 (3) 2 1
管理本部	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4 (3) 2 1
管理本部	財務について会計監査が適正に行われているか	(4) 3 2 1
管理本部	財務情報公開の体制整備はできているか	(4) 3 2 1

【課題】

①学生数の変化による収支の変動

【今後の改善方策】

①当法人の中期計画に基づき、単年度予算・収支計画を作成・実行している。少子化の影響等により学生総数が減少しているが、各部門の収入(学生募集)と支出(効率化等によるコスト削減)の管理を徹底することや、収益事業についても積極的に取り組むなど中・長期的な視野に立ち財務基盤の強化を図っていく。

【特記事項】

・会計監査については、公認会計士事務所による定期的なモニタリングや総合的な監査を計画的に実施しており、適正である旨の評価を得ている。
 ・貸借対照表・資金収支計算書・事業活動収支計算書、財産目録、事業報告書、監事監査報告書をホームページに公開している。

(9)法令等の遵守

回答者	評価項目	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
管理本部	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1
管理本部	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4 ③ 2 1
管理本部	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4 ③ 2 1
管理本部	自己評価結果を公開しているか	④ 3 2 1

【課題】

- ①個人情報保護のための対策
- ②自己評価、学校関係者評価、第三者評価からなる学校評価の取り組み

【今後の改善方策】

- ①個人情報保護に関しては、「個人情報保護規程」により毎年個人情報管理台帳を整備し、個人データを適切に管理し運営しているが、情報機器の多様化・高度化への対応や、人的セキュリティの徹底などに積極的に取り組んでいく。
- ②学校関係者評価については、関連する企業の方、地域の方、卒業生、在校生の保護者などに委員として参画いただいております。委員会において発言された意見等を十分に踏まえて、カリキュラムの改定、教育活動の見直しなど質の向上に取り組んでいく。

【特記事項】

- ・情報セキュリティ向上のため、校務系システムと学習系システムを物理的に分離し、学生側から校務系データにアクセスできないよう対策を講じている。
- ・自己評価、学校関係者評価については、例年実施し、ホームページに公表している。

(10)社会貢献・地域貢献

回答者	評価項目	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学校	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4 (3) 2 1
学校	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	(4) 3 2 1
学校	地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4 (3) 2 1

【課題】

①ボランティア活動への参加の機会確保と奨励

【今後の改善方策】

①授業の中でボランティア活動に対する理解を深めることや、学校がボランティア団体と定期的な調整を行うなど、より一層学生がボランティア活動に参加しやすい環境を整えることにより、自発的な活動を支援していく。

【特記事項】

- ・愛媛マラソンボランティア活動としてマラソンコース内の交通整理と清掃活動に参加(今年度は中止)
- ・県内高校からの依頼にてオンライン授業の実施